

「東京ゲームショー 2019」

神谷 直亮

「もっとつながる。もっと楽しい」をテーマに掲げた「東京ゲームショー 2019 (TGS2019)」が、9月12日から15日まで幕張メッセ(千葉市美浜区)で開催された。主催したコンピュータエンターテインメント協会の発表によれば、世界40ヶ国・地域から655社・団体が出展し、総来場者数は26万2,076人に達したという。

第23回を迎えた今回の会場の特色は、まず、メインホール(4~7ホール)では、ソニー・インタラクティブ・エンタテインメント、KONAMI、スクウェア・エニックス、バンダイナムコ・エンターテインメント、セガゲームス、カプコンのビッグ6に、5Gの普及を目指すNTTドコモが加わり、今までになく賑わっていた。

次いで、9~11ホールには、VR/ARコーナー、e-SportsX Redステージ、同Blueステージ、インディーゲームコーナー、ニュースターズコーナーが設けられ、若い世代による盛り上がりが見られた。

さらに、「TGSフォーラム2019」では、「5Gのインパクト」「VRマーケット」「eスポーツへの参入」「VTuber」「2020年の展望」などをテーマにしてホットな討論が行われた。

本稿では、ビッグ6によるゲームショーの王道から少しそれるが、5G、VR/AR、e-Sportsに絞ってレポートする。

初出展を飾ったNTTドコモは、「5Gでゲームが変わる」をキャッチフレーズに掲げて、同社が推進する5Gプロジェク

トの大々的な売込みを図った。ブースには、可搬型基地局(周波数帯域3.7GHzと4.5GHz)が仮設され、実際に5Gの通信回線を使う4つのデモンストレーションが行われていた。

まず、メインステージでは、韓国、香港、マレーシアなどからアジアの一流プロゲーマーを招待して「ストリートファイターVアーケイドエディション Asian Invitational 2019」を開催した。次いで、カプコンの協力を得て制作した「ストリートファイター」の3D映像を5G対応のスマホやタブレットを使って、どの角度からでも観戦できるAR対戦ゲームを公開した。さらに「5G LAN PARTY」と名付け、ステージでは、「PUBG」と「鉄拳7」のコミュニティイベントが行われ、100席近いゲーム専用席がすべて埋め尽くされるほどの人気であった。4つ目のステージでは、フィンランドのハッチ・エンターテインメント(HATCH)と提携して行っているモバイル向けゲームストリーミングサービスのPRが行われた。HATCHには、ドコモベンチャーズ(ドコモの100%子会社)が出資しており、「5Gの特性を生かしたクラウドゲーミングサービスの開発を進めている」という。

今回VR/ARコーナーに出展したのは、バプティックス、匠、サイバースーツ、シス(SISS)、TV朝日メディアブックス、グランディング、テクニカルアーツ、VRプロフェッショナルアカデミー、キーウエストなど24社に及んだ。

敢えて今回の特色を2つ挙げれば、1つは五感に訴えたり、身体をフルに使う「アクションVR」が多かった。昨年は、「フォトン・バイク」「ドライビングシミュレーターTR3」「乗馬VR」といった多彩なVR用の機器が注目を集めたのと非常に対照的であった。もう1つの傾向は、「VRカレシ」「ポリフル」「スペースチャンネル5あらかたダンシングショー」など、「あなただけが会える。遊べる」という試遊者を主体として重んじるVRアプリに人気が集まっていた。

韓国から出展したバプティックス(bHapics)社は、全身に振動ポイントを取り付けて触覚フィードバックを楽しむ次世代VRソリューションを紹介した。説明員によれば、「振動のフィードバックポイントは、ヘッドセットに6カ所、手のアーマーに6カ所(3x2)、足のアーマーに6カ所(3x2)、ベストに40カ所、スリーブに12カ所(6x2)取り付けられている」とのことであった。また、「ソリューションの肝は、70カ所からのフィードバックをウェブベースで編集できるツール(bHaptic Designer)」と強調していた。促されるままに「Oculus Quest」ヘッドセット、ベスト、アーマーなどをフルに装着して試してみたら個々の振動ポイントの強さや持続時間が見事に調整できているのが分かった。アプリケーションとして担当者が挙げているのは、「VRボクシング、VR格闘技、VRリハビリ」であった。

愛媛県松山市に拠点を持っているという



写真1 NTTドコモは、「5Gでゲームが変わる」をキャッチフレーズに掲げて、多彩な5Gプロジェクトをアピールした。



写真2 ドコモのメインステージでは、プロゲーマーを招待して「ストリートファイターVアーケイドエディション」が開催されていた。



写真3 バプティックスは、全身に振動ポイントを取り付けて触覚フィードバックを楽しむ次世代VRソリューションを紹介した。



写真4 匠は、仮想空間を歩き回りながら没入度を上げることができる「KAT WALK」を出展して脚光を浴びた。

匠は、中国のKAT VR社の超小型VRデバイスを装着するだけで仮想空間を歩き回りながら没入度を上げることができる「KAT WALK」を出展して脚光を浴びた。説明員は、「衝撃吸収ベースプレートの上で、歩くのはもちろんのこと、走ったり、かがんだりもできるのでシューティング対戦ゲーム、ホラー・アクションなどに向いている」と語っていた。ブースでの試遊には「HTC VIVE」ヘッドセットが採用されていたが、「Oculus Rift」や「PS VR」との接続も可能という。

オーストリアに本社を構えるサイバースューズ社は、VR空間を思い通りに歩くための特製のシューズを紹介して注目を集めた。シューズの裏に正確なトラッキングのためのローラー、オリエンテーションのためのIMU、回転牽引のためのグリップがついているのがミソである。ブースでは、多くの来場者がサイバーカーペットの上を歩いたり、走ったり、ジャンプしたりして楽しんでいた。

「あなただけのカレシに出会える」をキャッチコピーに掲げてスマートフォンアプリ「VR カレシ」(2020年初頭配信予定)の大規模なPRを行ったのは、IVRブランドで知られるシス社だ。会場に設営された特設体験ブースで、4人のカレシとの恋愛VRコミュニケーションができるというので女性のファンが長蛇の列を作っていた。ハコスコ製の「VR カレシ」特製ヘッドセットに、自身のスマートフォンを挿入して視聴するという非常にシンプルなシステムになっているのも人気の秘密と言える。

TV朝日メディアブックスは、「VTuber



写真5 シス社は、スマートフォンアプリ「VR カレシ」の大規模なPRを行い多くのファンを集めた。

と会える!遊べる!」をうたい文句にVRリズムアクションゲーム「ポリフル」の試遊の場を提供した。ブースでは、「Oculus Rift S」ヘッドセットを装着して、サイリウムを手にして遊びまくる来場者が目についた。

グランディングも「音楽とダンスが宇宙を救う」というテーマで「スペースチャンネル5 あらかたダンシングショー」の体験を促して注目を集めていた。

テクニカルアーツは、その社名の通り技術的+美術的にコンピュータソフトウェアを開発している会社として知られる。今回、同社は、「Oculus Go」ヘッドセットとラケットに見立てたコントローラを使ってテニスのサーブの打ち方、受け方の体験を促していた。「サイバートennisをぜひ体験してみたい」という誘いに乗ってサーブを試みてみたが、トリガーを引いてトスを上げ、ボールが落ちてくるタイミングを的確に見計らって打つのに苦労した。

VRプロフェッショナルアカデミーは、子供向けの「学なVR」とVR心理テスト用に制作したという「Once Upon a Time in VR」を紹介し、キーウエストは、「ミラージュノロ」ヘッドセットを使って、一風変わった「お化け屋敷 呪刻シリーズ」の試遊を促していた。「ミラージュノロ」を使っている理由については、「近くのブースで使われていないので、干渉が少なく、集中して体験できる」と説明



写真6 「eSports X」の会場では、10タイトルの熱のこもった競技が行われ脚光を浴びた。

していた。

ゲームと言えば、ソニーを忘れるわけにはいかない。同社は、今回8つの小部屋でVRを、60の専用席でPS4の試遊を行えるようにアレンジしていた。VRに関しては、「アーベルアイアンマンVR」「Last Labyrinth」「初音ミクVR」など8本のタイトルを提供した。

eSportsに関しては、日本eスポーツ連合が9ホールにeSportsX Red Stage、10ホールに同Blue Stageを設営して、Redステージでは、IESF「第11回eスポーツワールドチャンピオンシップ」(eFootballウイニングイレブン2020日本代表決定戦)、「パズドラチャンピオンズカップTGS2019」「ドラゴンクエストライバルズマスタースカップin TGS2019」などを開催した。一方、Blueステージでは、「コールオブデューティモダンウォーフエアスペシャルマッチ」「鉄拳プロチャンピオンシップ日本代表決定戦2019」「CAPCOM Pro Tour アジアプレミア」などが行われた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

ニッサン新エルグランド4WD
5名定員
1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m以下(地下駐車場可)
3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ボール4m 搭載
強化サスペンション
国内(100V)海外(240V)対応
IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション

SMART SNG
HD TV, 3D TV and IP-OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

A Communications k.k.